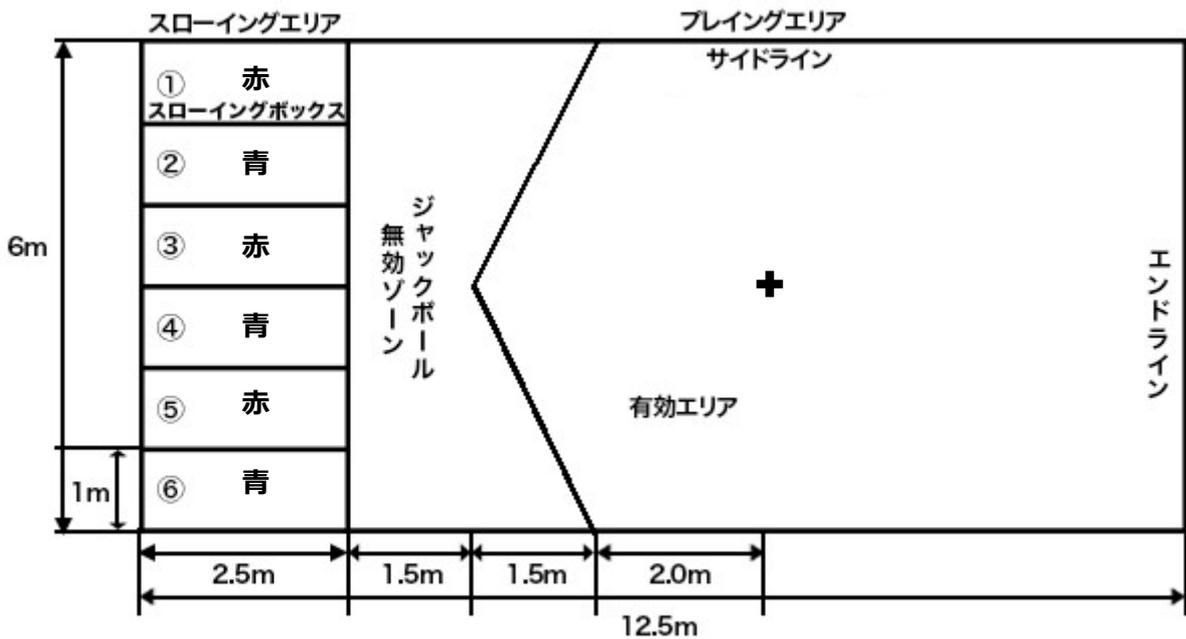


1. 試合形式

- (1) 1試合は各チーム3人で行います。
1チームの人数に制限はありませんが、1試合の選手は3人です。
- (2) 試合ごとに選手が代わってもかまいません。試合の途中で選手が替わることはできません。
一人の選手が2つのチームに所属することはできません。
- (3) ポッチャ公式競技用コートを使用して実施します。



※①～⑥は投げる順番ではありません。
チーム内でカラーボールを投げる順番に、決まりはありません。

2. 試合の流れ(ルール：基本的に日本ユニバーサルポッチャ連盟競技規則に準じて行います。)

- (1) 挨拶のあと、じゃんけんをします。
- (2) じゃんけんが勝った方が先攻か後攻かを選ぶことができます。
- (3) 先攻・赤チームは、上記コートの①・③・⑤スローイングボックスに入り、
後攻・青チームは、②・④・⑥のスローイングボックスに入ります。
※もし、急遽3人以下のチームの場合は、スローイングボックスのどの番号に入るか
選択します。ただし、一度選択したスローイングボックスを試合途中で変更することは
できません
- (4) 選手1人につき2個のカラーボールを持ちます。
- (5) 1試合2エンド制で実施します。
第1エンドは、赤チームがジャックボールを投球します。
第2エンドは、青チームがジャックボールを投球します。

- (6) ジャックボール (的となる白い球) を投げます。
※ジャックボールはVラインを越えていなければいけません。
→ジャックボールが外枠線にかかったり (越えたり) Vラインを越え なかった場合は、
相手選手がジャックボールを投球すします。
- (7) ジャックボールを投球した選手がカラーボールを投げます。
- (8) 相手が1球投げます。
- (9) ジャックボールから遠いボールの選手が投げます。
→赤と青が同距離の場合、後で投球したチームが再度投球

投げる際の注意点

チーム内でカラーボールを投げる順番に、決まりはありません。

スローイングラインに足などがふれたり、こえたりする場合はリトラクション(ボール除去)となり、そのボールは無効となります

試合中にジャックボールが有効エリアから出た場合には、ジャックボールはクロスの位置に置かれます。その後ジャックボールから遠いチームが投げます。

- (10) 赤・青とも各6球投げたら終了。
- (11) 審判は、各チームの代表者にコートに呼び、試合結果を説明し、得点を発表
- (12) 第2エンドは、青チームのスローイングボックスの人が投球します。
以降は(6)~(11)と同様
- (13) 審判は、第1エンド、第2エンドの合計得点で試合結果を発表

3. ハンディ等

(1) ハンディ：なし

(2) ランプス使用する場合の特例

ランプスを使用してボールがジャックボール等に届かないと思われる場合は (審判判断) スローラインより前に出て投げることができる。

ただし、投げる人が斜めのラインを越えてはならない。ランプスは斜めのラインを越えてもよい。

4. 勝者の決定方法

(1) 試合の勝者の決定

・勝者や得点が明確でなく疑義を生じると思われる場合には、審判は両チームの選手を一人ずつ呼び、勝者や得点について確認を求めることができます。

・2エンド実施し、合計得点の高いチームが勝ちとなります。

同点の場合には、予選リーグは引き分けです。

決勝トーナメントはタイブレイクとして、もう1エンド実施します (ジャックボールはクロスに置いてゲームを始めます)。

じゃんけんで勝った方が先攻か後攻かを選ぶことができます。

(2) 決勝トーナメント出場チームの決定

- 予選リーグの勝ち数が最も多いチームが、決勝トーナメントに進出します。
勝ち数が同数の場合には、①得失点差の多いチーム、②直接対決の勝者チーム、の順で決定します。
それでも決まらない場合には、ジャックボールをクロス位置に置き、一人1球ずつ投げてジャックボールに近いチームが決勝トーナメント進出となります。
じゃんけんが勝った方が先攻か後攻かを選ぶことができます。
- 決勝トーナメント進出が決まったチームから、決勝トーナメントの抽選をして対戦相手を決めます。

5. その他

上記に定めがない場合には、主催者が協議の上決定します。